

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 3月 15日

【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県指定 第4670105180号		
法人名	有限会社 ソフィア・インターナショナル		
事業所名	グループホーム 山田の里		
所在地	鹿児島県 鹿児島市 山田町 44-3 (電話) 099-264-0604		
評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構		
所在地	鹿児島市星ヶ峯4-2-6		
訪問調査日	平成21年3月11日	評価確定日	平成21年3月21日

【情報提供票より】 (21年1月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18年 3月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 4人, 非常勤 13人, 常勤換算 14人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 2階建て	造り
	2階建ての	1 ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	10,000 円
敷金	○有 (100,000 円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) ○無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 300 円
	夕食	300 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 1000 円		

(4) 利用者の概要 (1月 31日現在)

利用者人数	16 名	男性 7 名	女性 9 名
要介護 1	4名	要介護 2	2名
要介護 3	8名	要介護 4	1名
要介護 5	1名	要支援 2	0名
年齢	平均 86 歳	最低 69 歳	最高 98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	徳州会病院・中山クリニック・ひまわり歯科
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

地域密着型サービスの意義や役割にのっとった理念に添って、その人らしく地域のなかで生活が送れるよう支援している。家族も交えた外食や戸外レクリエーションなど、一人ひとりの思いや意向を大切にしている。現状に甘んじることなく、より一層のサービスの質向上を目指して、職員研修・地域との付き合い・市担当者との連携など、常に努力し進めている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)
	前回評価の改善課題はなし。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)
	自己評価について全職員で話し合い、ケアの振り返りや見直しに努め、評価を活かして改善に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)
	運営推進会議を定期的開催し、利用者やホームの状況等を報告し、話し合いで出された意見は記録し、サービス向上に活かしている。会議を災害訓練日に計画し、多くの人が訓練に参加し協力をもらうなど工夫している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)
	入居時に苦情・相談窓口について説明し、面会時に要望や意見を聞くように努めている。年1回の家族会や毎月の行事に家族の参加があり、意見を聞く機会を設けている。意見を聞いた職員は記録し、運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)
	自治会に加入し、地域住民と朝夕の挨拶を交わしたり、花や野菜をいただくなどお付き合いがある。保育園児の訪問や小学校の運動会・中学生の体験学習の受け入れなど、地域との交流に努めている。

2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義や役割の上から、入居者を支えていくサービスとしての理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をホールや玄関の見やすいところに掲示し、朝礼時や勉強会等で理念を唱和し共有しており、日々理念に添ったケアの実践に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、地域住民と朝夕の挨拶を心がけ、花や野菜をもらう等お付き合いがある。保育園児の見学や小学校の運動会・中学生の体験学習の受け入れなど地域交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価について全職員で話し合い、ケアの振り返りや見直しに努め、評価を活かした改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的開催し、利用者やホームの状況等報告し、話し合いで出された意見を記録し、サービス向上に活かしている。運営推進会議を災害訓練と同日に計画し、多くの人に訓練に参加してもらう様工夫している。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	利用者やホームの状況等を報告したり相談をしている。連携してサービスの質向上に活かすために、運営推進会議等への出席を依頼する等努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月ホーム便りで、利用者の暮らしぶりや職員の異動などのほか、個々にあわせた報告をしている。金銭管理は面会時に出納帳を確認し、サインをもらい、体調についてはそのつど電話にて連絡している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時に苦情・相談窓口について説明し、面会時にも声をかけている。家族会や毎月の行事への家族参加があり意見を聞く機会を設けている。意見は記録し、支援に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職を最小限に抑える努力をしている。新規採用時は勤務や時間などに配慮し、ダメージを防ぐ工夫をおこなっている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	協力病院や地区のグループホームの研修会などに積極的に参加し、ホーム内の勉強会で報告を行い、研修内容の共有に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホームでネットワークをつくり、情報交換や相談など交流を行い、サービスの質向上に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居申し込みの際、自宅や病院を訪問し面談したりホームの見学を勧め、お茶や行事へ招待し、除々に馴染めるよう家族と相談しながら工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の思いに寄り添う気持ちで接しており、畑や行事食の作り方・調理など教えてもらうことがあり、支えあう関係が築かれている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で、希望や意向を把握するように努め、家族や関係者から情報を聞き、本人の気持ちを尊重した取り組みを行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族・主治医・職員の意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	本人や家族・職員で話し合い毎月評価し、6ヶ月ごとに計画の見直しを行っている。状態変化時は家族や関係者と話し合い、現状に即した計画を作成している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族と相談しながらの通院介助や病院受診、自宅訪問・墓参り・買い物支援など要望に応じて支援している。協力病院との連携による24時間医療体制、訪問リハビリなども柔軟に支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者の希望する主治医や協力病院の受診を支援している。月2回の往診や疾患別による病院受診等適切な医療を支援している。病状報告は便りや電話で行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期についての方針を入居時や家族会の時に説明し、話し合っている。状態変化時は、繰り返し家族や主治医・関係者と話し合い方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の誇りやプライバシーを尊重した言葉かけや対応に努めている。記録等についても勉強会を実施し、個人情報の取り扱いなどに配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れは決めているが、起床や食事時間・散歩など、体調に配慮しながら入居者のペースで過ごしてもらっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買いものや調理の下ごしらえなどに参加してもらい、職員も一緒に食事をしている。外食の機会もあり、食事を楽しむことのできる支援をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	男女交替で入浴日を決めているが、希望があればいつでも入浴できる。入浴剤や季節のゆず湯・菖蒲湯など計画し、入浴を楽しめるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	モップかけや洗濯物たたみ・下膳などできることを行い、トランプや唄などの楽しみごとや、家族参加の戸外レクリエーションや外食など気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気や入居者の体調を見ながら、散歩や買い物に同行している。また一人ひとりの希望を聞いて海や墓参り・自宅など個別に外出を支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	見守りや連携を徹底し、鍵をかけないケアを実践している。利用者の様子を察知し、散歩に誘うなど鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署や家族代表と協力し、消火や避難訓練を行っている。カセットボンベや水・インスタント食品など災害に備え備蓄も行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取状況や水分量などを把握している。刻みやとろみ等、主治医の指示や一人ひとりの状態や習慣に応じた支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	中庭を囲み廊下と広いホールがあり明るい共同空間となっている。入り口やホールには季節の花が飾られ、畳とソファが置かれた部屋もあり、くつろげる雰囲気と居心地よく過ごせる工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた鏡台や椅子・テレビ・時計のほか、写真や人形などなじみの品を飾り、入居者が安心して過ごせるよう工夫している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。